

破綻の危機を乗り越切るには

これまで6回にわたって、彦根市の厳しい財政状況などについてお伝えしてきました。今回は、市が提供しているいろいろなサービスにかかっているコスト（費用）について考えます。

行政サービスのコストとは

行政活動には、ごみの収集と処理、公共施設の運営・管理など、市民の皆さんに直接サービスを提供するもののほか、市役所の組織を管理するための事務や、建物の維持管理など、市民の皆さんの目に直接触れないものもあります。これらすべての行政活動には、「コスト」が必要で、行政サービスの成果はコストだけで評価されるものではありません。しかし、常にコストを把握し、市民の皆さんにお知らせしていくことは、行政活動の効率をよくしたり、限られた財

①ごみ処理経費

「広報ひこね」6月1日号でもお知らせしたとおり、家庭から出されるごみは今も増える傾向にあります。ごみを集め、処理することは、市民の生活を守る行政の重要な役割の一つです。こうした仕事にかかる費用は、どうしても避け

られないので、いかに少ない費用ですませることが大切になります。では、現在ごみの収集と処理には、1世帯当たりどのくらいの費用がかかっているのでしょうか。下の表は、平成15年度に収集したごみの量と、処理にかかった費用を表しています。そのときの市内の世帯数は約3万9千世帯ですから、1世帯当たり年間約1トンのごみが出され、約3万円の費用がかかったことになり、この計算には、清掃センターの建設費の減価償却などは含まれていないので、実際にはもっと増えることになり

ごみ処理の費用を少なくするには、ごみを出さないうようにすることが大切です。ごみの量が減れば、処理に要する費用も少なくて済みます。また、プラスチックごみの分別には年間約7,000万円が必要ですが、これもきちんと分別す

平成15年度1年間に
処理したごみの量
合計約**41,000**トン

▶平成15年度1年間に
かかったごみ処理の費用
約**11億4,000**万円

収集・運搬など	約4億9,000万円
焼却・分別・施設の維持管理費など	約5億7,000万円
施設の補修・改良など	約8,000万円

▶ごみ処理に関して得られる
1年間の収入
ごみ処理手数料（有料分）など
約**1億9,000**万円

燃やせるごみ	32,000 トン
プラスチックごみ	2,600 トン
缶・ペットボトル・びん類	1,900 トン
陶器・その他	2,000 トン
粗大ごみ	1,800 トン
その他	700 トン

ること減らすことのできる費用です。ごみになるものは最初から買わない。使えなくなるまで使い、要らなくなったらリサイクルに出す。また、プラスチックごみなどの資源ごみは、中身や汚れを取り除き、正しく分別する。

こうしたことで、ごみが資源となるだけでなく、分別などの処理にかかる費用も少なくなり、そのお金でほかのサービスを充実させることができるのです。市民の皆さんも、身近なことからの協力をお願いします。

②ひこね市文化プラザの運営

次に、ひこね市文化プラザの運営にかかる費用についてお知らせします。ひこね市文化プラザは、彦根市の文化振興と交流の拠点として建設し、たくさんの皆さんに利用していただいています。文化プラザの管理・運営は、現在、市の外郭団体である財彦根市文化体育振興事業団が彦根市から委託を受け、クラシック音楽やポピュラーミュージックのコンサート、演劇などいろいろなジャンルの公演や、施設の維持管理などを行っています。

現状では、公演によっては入場者の少ないものもあり、市民の皆さんの多様なニーズにこたえ、いかに市民の皆さんに利用いただくかが課題になっています。また、施設の維持管理には多額の費用がかかっています。

496億円にのぼっています。その返済や維持管理費のための費用は、下水道の使用料だけでなく、市税でも負担しています。市税の負担が増えると、他の市民サービスを縮小しなければならぬため、この4月から下水道使用料の値上げを行いました。

③下水道事業

彦根市の下水道の整備状況などについては、7月1日号や、9月15日号でお知らせしてきました。下水道整備には多額の経費が必要で、整備のために借りた市債の残高は、平成15年度末で約

また、下水道の供用区域内の水洗化率（利用率）は71.9%で、下水道整備の終わった地域の人の約3割が利用されています。

④広報ひこねの発行

最後に、この「広報ひこね」の発行経費についてお知らせします。

今回は、コストに視点を当ててお知らせしました。コストを明確にすることは、業務の効率化を推進するだけでなく、その事業はコストをかけても本当に必要なのか、実施方法は適切なのか、使用料などの利用者負担は適正なのかといった見直しをすることにつながります。今後は、これらを行政サービスの利用者である皆さんに積極的に公開していくことで、皆さんとともに、サービスの内容や利用と負担のあり方などについて考えていきたいと思っています。

文化プラザ運営経費の収支

(平成15年度)

自主公演などにかかった費用	約 6,800 万円
公演などの入場料	約 4,200 万円
収 支	約 -2,600 万円

不足額2,600万円のうち、約2,200万円を税金で賄っています。このほか、施設の維持・管理の費用に、年間約2億4千万円をかけています。

文化プラザの稼働率

(使用日数÷開館日数(308日))×100

グランドホール(約1,400席)	47%
エコホール(約350席)	51%
メッセホール(約270席)	56%

下水道事業の現状(平成15年度末)

供用区域内の人口	水洗化人口	人口水洗化率	下水道使用料収入
65,104 人	46,804 人	71.9%	約 7億9,300 万円

市政の情報については、「広報ひこね」のほか、テレビやラジオ、インターネットなどを通じてお知らせしています。しかし、皆さんにとっては、「広報ひこね」が一番身近な市政の情報源ではないでしょうか。現在、「広報ひこね」は、月2回(1月・8月は1回)、市内の全世帯に配布しています。発行にあたっては、2人の広報担当職員が取材・編集などを行っています。

人件費や印刷経費などを含めた費用は、平成15年度の1年間で約2,500万円でした。一部当たりにすると、約28円かかったこととなります。また、「広報ひこね」やその他のチラシなどを皆さんの自宅

市民の皆さんの「ご意見」を「ご提案」をお待ちしています。

■ 経営改革推進室 FAX ②13398番 Eメール keieikaikaku@ma.city.hikone-shiga.jp